

いといがわえききた

糸魚川駅北地区

(新潟県糸魚川市)

- 計画期間 平成18年度～平成21年度
- 面積 25ha
- 交付対象事業費 248.5百万円
- 市人口 40,171人

ポイント “塩の道・加賀街道”人と文化の交差点 歩けば出会いと発見のある「おもしろい(面白い、楽しい)まち」

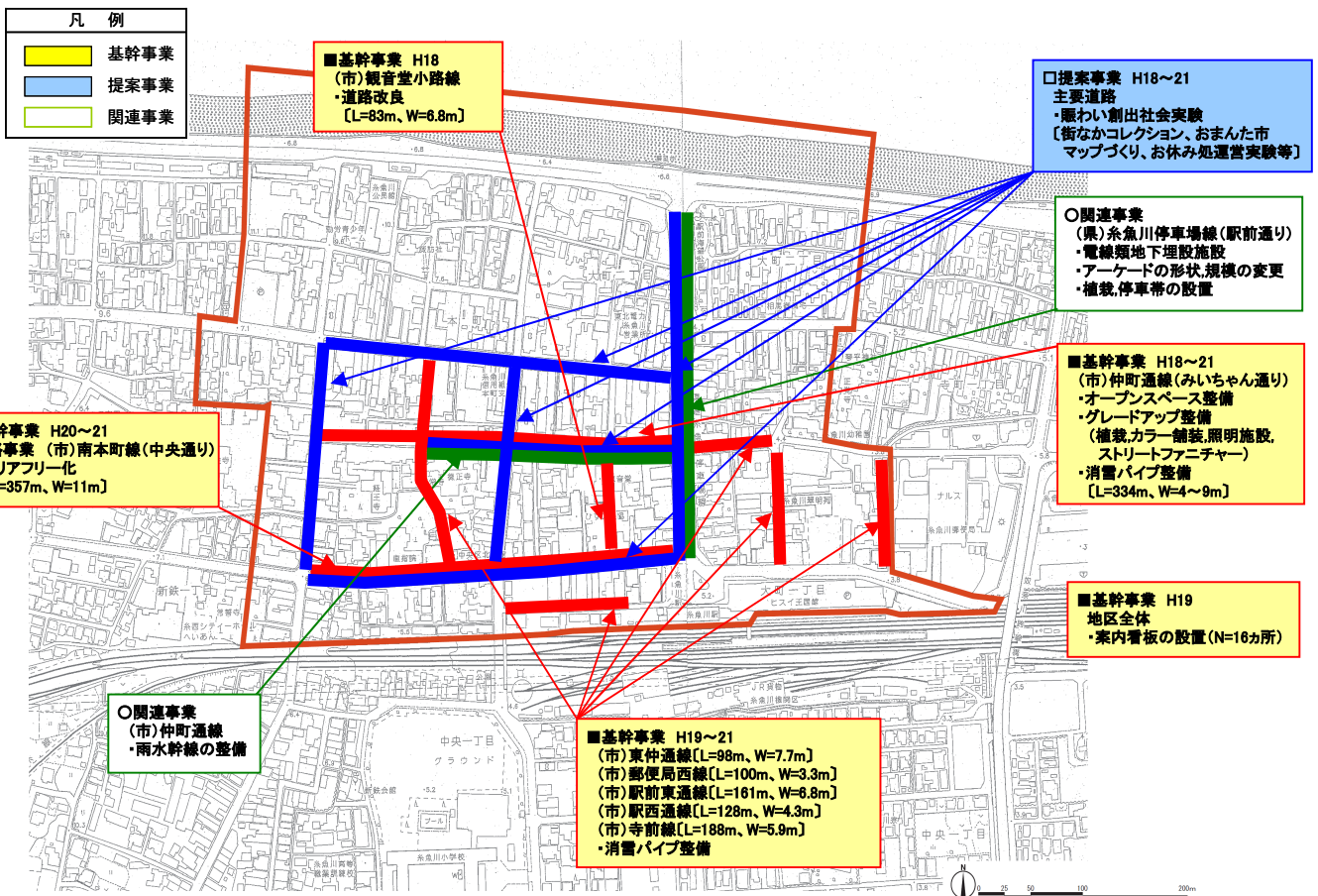
地区概要 民間主導によるまちづくり活動を通して、催し物の開催や、お休み処の利用などにより、減少を続ける中心商店街の歩行者数の減少を最小限に抑えるようこの地域の活性化を図る。

目標 糸魚川市駅北エリアにおいて、交流と発見のある、安心して歩けるまちなかづくりを図る。

指標 市民が中心となった組織が施策を検討することにより、自らが行うまちづくりとして期待される。
そのことで、当該地区の入込み客数や「お休み処」の利用者数の増加を目指す。

中心商店街の歩行者減少率	-4.9%	(H17)	→	-2.6%	(H21)
催し物の入込客数(民間主体)	22,500	(H17)	→	25,000	(H21)
	(人/年)			(人/年)	
民間まちづくり活動の参加人数	37	(H17)	→	50	(H21)
	(人/年)			(人/年)	
「お休み処」の利用者数	20	(H17)	→	40	(H21)
	(人/日)			(人/日)	

事業内容 基幹事業 (234.7百万円) → 道路(幅員3.3m～11.0m、延長1,449m)、案内看板設置(16箇所)
提案事業 (13.8百万円) → 賑わい創出社会実験



地区の現況と課題

糸魚川駅北地域の現況

越後と信州を結ぶ「塩の道」の起点として、加賀藩参勤交代の際の本陣設置場所としてなど 様々な歴史文化を有する地域。

行政や商業機能が集積し、糸魚川市における賑わいの中心的な役割を担ってきた。

糸魚川駅北地域の課題

郊外型ショッピングセンターの進出を機に消費者の商店街からの流出が始まり、活力が低下し、賑わいが喪失している。

各種事業に取り組んできたが、ソフト面の取り組みが不十分であったことなどにより、来街者や賑わいの回復が図られない。

提案事業の特徴

賑わい創出社会実験

地産地消を目指した定期市の開催。地域のお宝を活かした賑わいの創出事業の「街なかコレクション」の実施。その事業の中でのお休み処の運営実験など地域資源を有効に活用した内容となっている。

駅北まちづくり実行委員会による活動

平成16年度・17年度に組織した「市民まちづくり懇談会」のメンバーを中心に、商店街関係者、NPO、地域住民など、市民を巻き込んだ地域に根ざした活動を進めている。

計画策定プロセス

意見交換会の開催

道づくりに関する5回の意見交換会。駐車禁止対策を検討する4回の意見交換会など、沿線住民の「道」に対する思いを事業の計画に活かしてきた。

視察や研修会

お休み処の運営状況の視察、街なかの資源を活用したイベントの視察、駐車禁止解除の取り組みをしている地域の視察など、自らの活動のために必要な先進地の視察を行ってきた。

また、新幹線開通を控え、この駅北地区の新幹線との関わりをどうすればいいのか、著名な講師を迎え一般市民も巻き込んだ講演会を行った。



▲地域のお宝発掘「街なかコレクション」



▲地産地消を目指した定期市「おまんた市」



▲意見交換会「快道づくり」



▲まちづくり講演会「藻谷浩介氏」